

## 大島紬縞文様集Vol.1 小柄（伝統柄）の編纂

大島紬部 ○徳永嘉美

### 1. はじめに

大島紬の縞文様は、当初琉球縞を受け継いでいたが、明治末、締機を開発することで独自の縞文様のデザインを確立した。まず最初に登場したのが小柄である。そのデザインの発想は自然の事象、そして身近な暮らしの道具や遊具など様々であり、土地の風土に染まりながらさらに変化している。

多くの小柄が残されているが、まず名称のはっきりしているものを「伝統柄」として、デザインソースのモチーフ毎にまとめ編纂した。

小柄は、図案だけでなく再現するためには組織の分解図が重要となるので、織上がり想定図と共に表記した。さらには、参考資料として縞締めの羽割り、特記事項等を付け加えている。

### 2. 内容及び結果

#### 2.1 汎用画像処理ソフトによる仕上がり想定技術の確立

業界で現在活用されている大島紬設計CADシステム（タフコン）は、規定の縞配列構成の図案作図には対応できているが、ランダムな縞配列構成となる小柄の作図機能は欠けている。小柄を復元し縞文様集を作成するにあたり、実寸による仕上がり想定図は欠かせないものであることから、汎用の画像処理ソフト（イラストレータ）を用いて、小柄の分解図から実寸の仕上がり想定を作図する手法を構築した。そしてさらに光源の方向を設定しソフトのグラデーション機能を用い作図することで、糸1本に立体感を与えることができ仕上がり想定図がより実物に近づきリアルとなった。

#### 2.2 大島紬縞文様集の編纂

過去における調査研究資料及び近年発見された博物館資料等を基に、組織分解を再構築しCADで仕上がり想定を行うことで復元することができた。今回は名称のあるものを「伝統柄」として、デザインの発想源による14の種別に分け293柄を編纂した。コンテンツを図1に事例内容を図2に示す。

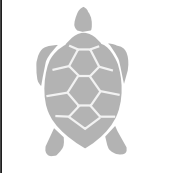

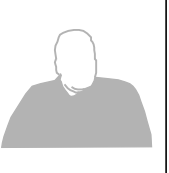
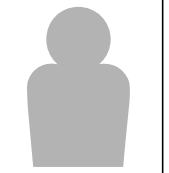
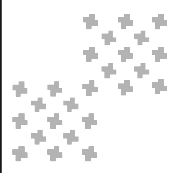

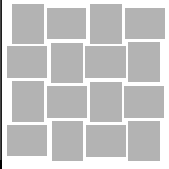


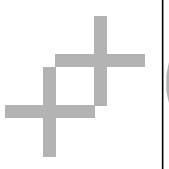
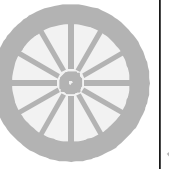
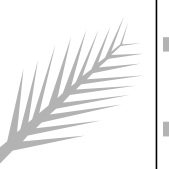
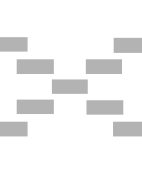
亀甲	ツガ	西郷	人名	文字	十の字	花
				女 田 日 米		
バラ	風車	タスキ	長	車	ソテツ葉	チラシ
						

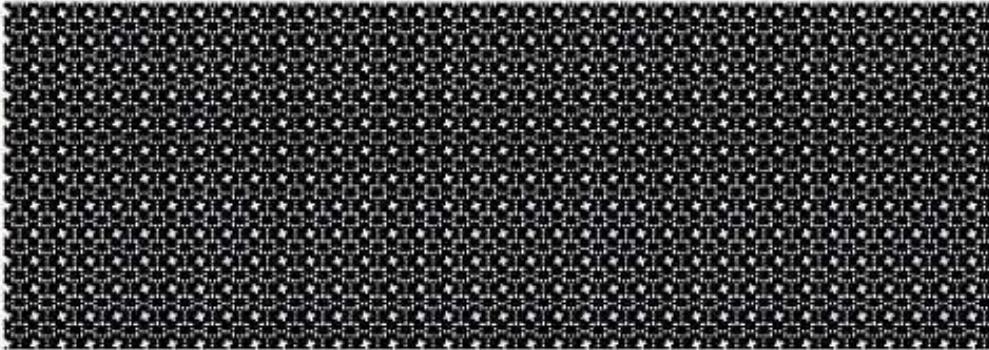
図1 デザインの発想源によるコンテンツ

### 3. 終わりに

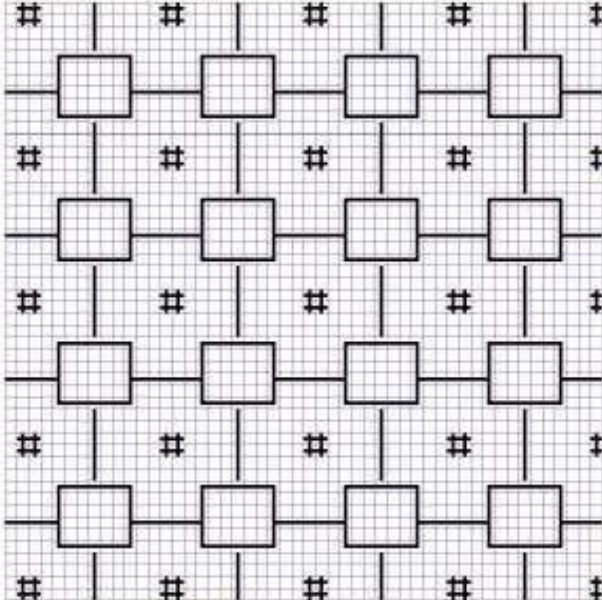
小柄の大島紬は、これまで男性用として販売されていたが、近年女性も着用するなど用途の広がりを見せている。今後小柄は着尺のみならず、小物やネクタイなどの柄としても十分に活用が可能であり、この縞文様集を参考として、さらに多くの柄がデザイン展開されることを期待したい。

# 柄名 赤尾木西郷

仕上がり想定



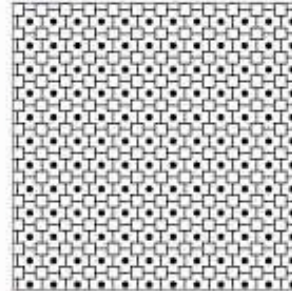
解分解図(2マス=1羽)



井 糸 1  
地 糸 1  
井 糸 2  
地 糸 2  
井 糸 2  
地 糸 1  
井 糸 2

井 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸  
地 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸  
1 2 1 2 2 1 1 2

解図案



(特記事項)

- ・織設…13算 (570羽)
- ・釜数…90釜
- ・品数…経 2品 緯 2品
- ・経糸数…450本
- ・経地糸数…630本
- ・両耳本数…60本 (30羽)
- ・主産地…赤尾木

(参考解解め羽割り)

経品	長 解	3羽穴通・3羽穴空・3羽穴通・3羽穴空
	十の字解	1羽穴通・5羽穴空・1羽穴通・5羽穴空

緯品	長 解	3羽穴通・3羽穴空・3羽穴通・3羽穴空
	十の字解	1羽穴通・5羽穴空・1羽穴通・5羽穴空

図2 文様集の事例内容